

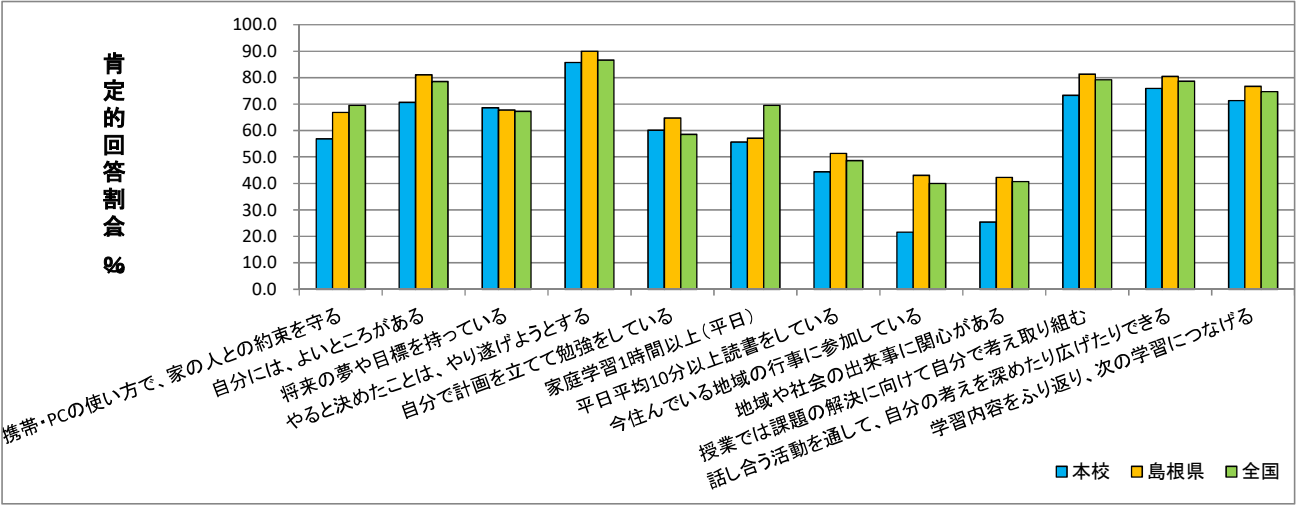
(1)学力調査結果から見られた傾向

	成果と課題(○:成果, ●:課題)	対 策(・)
国語	○漢字、文法、情報活用の基本事項については、県や全校の正答率を上回っている。 ●長文の展開を把握しながら読むことに課題がある。 ●記述式解答の問題で無回答率が高い。	・漢字練習や小テストを継続して実施する。 ・読解の単元では話の展開を捉えるようにワークシートの工夫をする。 ・授業の中で文を書き、友達の文を読んで評価する機会を増やす。
数学	○基本的な計算問題等は県平均を上回っている。 ●問題に書かれていることをきちんと読み取り、自分の考えを説明する力が弱い。 ●過年度に学習した事項について、県や全校の正答率を大きく下回っている。	・問題文を読み取る活動を丁寧に進めていく。 ・説明や証明の書き方について、グループや学級全体で検討していく機会を増やし、苦手な生徒も粘り強く取り組めるようにする。 ・1・2年生での既習事項についての知識・理解を深め、定着できるように、反復的に取り組ませる。
理科	○知識・技能を問う問題の正答率は県平均よりわずかに高く、「エネルギー」を柱とする領域での正答率が2ポイント高かった。 ●生命を柱とする領域の平均正答率は5ポイント低かった。 ●思考・判断・表現を問う問題の正答率は、2ポイント低かった。	・話し合い活動や実験の考察などを行う際に、思考の流れを意識したり、理科の見方・考え方を意識したりする工夫を授業で行っていく。 ・個別に記述する機会を授業の中で多く設定する。 ・単元テストなどを定期的実施する。

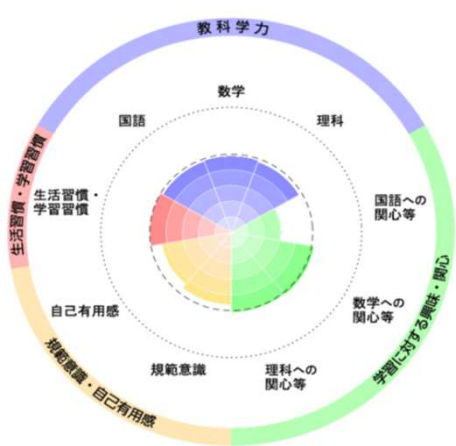
(2)生徒質問紙調査から見られた傾向

	成果と課題(○:成果, ●:課題)	対 策(・)
質問紙	○最高学年として行事や部活動で指示をしたり、主体的に取り組んだりした結果、困難なことでも挑戦しようとする意欲が高まった。 ●学校からの課題でわからないことがあったときに、教員へ聞いて解決しようとする生徒の割合が少ない。 ●中学校入学以来、地域での職場体験や交流活動を行うことが困難であったことから自分の住んでいる地域に対する関心が低い。	・進路選択に向け、学習相談や放課後学習を通して学習の理解を深める。 ・総合的な学習の時間を通して、町内や松江市内で地域づくりに貢献している方の生き方に触れ、自らの生き方を考える機会とする。

(3)生徒質問紙調査結果より(学力との相関が指摘されているものや、教育委員会として注目しているものを挙げています。)



(4)学力・学習状況調査結果チャート(破線は全国平均)



(5)その他、今後特に力を入れて取り組むこと

- ・家庭や学校で、生徒がICT機器やメディアを決まりを守って正しく利用できる力を、教育活動全体を通して身に付けさせていく。
- ・家庭・地域と連携して、ふるさと教育を推進する。
- ・望ましい家庭学習の習慣化を促進するため、教科や学年ごとのみでなく、学校全体での取組を行う。(自学ノート、基礎力テスト)

【受検者数】

153 名

※欠席等により調査によって受検者数が異なる場合は、最少の受検者数をもって表示。